

第5回国立市南部地域整備基本計画の策定に伴う 市民討議会実行委員会記録（要旨）

日 時：平成20年12月15日（月）午後7時00分～午後9時20分

場 所：市役所3階 第2会議室

出席委員：7名

欠席委員：2名

傍 聴：なし

事務局：3名

会議資料：会議次第

1. 開会挨拶（小林委員長）

- ・お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

2. 第3回実行委員会議事録の確認

- ・事前に送付した第4回実行委員会議事録について、昨日までに事務局へ追加や修正等の意見がなかったため、改めて意見を伺ったところ特に意見もなく、送付されたとおりで了解された。

3. 市民討議会の準備について

- ・第4回実行委員会に引き続きテーマの選定に先立ち、地区説明会で出された意見の分類を行った。
- ・作業は、第4回実行委員会の作業の進め方と同様に、2グループにわかれて意見の分類を行った。

【作業の様子】



▲テーマのまたがる意見の分類



▲分類後の意見交換

【分類後の主なご意見】

- ・緑の保全に関する意見が多いのかと予想していたが、道路のことなどいろいろな問題が多いことを実感した。住んでいる方々の気持ちを大事にしながらまとめていければと思う。
- ・基本構想や整備計画に対して、地域住民の方々は財源の問題を含めて不安や不信がかなりあることが具体的に見えた。第一には生活に根ざした整備に関して不満度が高いこと、一方で手順や方法についての不満もあり、総じて行政に対する要望、要求が強いことを感じた。自然、緑、農地などについては、保全などの要求がある一方、このままでは保全ができないから何とかしてほしいという要望も多い。
- ・基盤整備が進んでいないことの実感から市に対しての不満や要望が出ていると思う。社会的に自然保全や景観について関心が高いが、地区説明会の意見では農地保全や水路に関しての意見が比較的少なかったように思う。
- ・財政的裏付けに対する心配や不満、計画を作っても実現できるのかという声などがあつた。多岐にわたる意見を市民討議会でどう集約していくか、市民討議会を実のあるものにするにはどういう形にしていってよいかと思う。
- ・このように意見を分類していくやり方は、わかりやすくおもしろいことだった。感情的な意見、論理的な意見などいろいろな意見からテーマを絞り込むのは大変だ。南部地域に住んでいればわかることでも、市民討議会の当日に参加する人が住民の気持ちになれるのだろうかと思う。参加者が意見の出しやすいテーマにしたい。
- ・10回にわたる地区説明会で多岐に渡った意見が出たことが実感できた。多い意見、少ない意見があるが、テーマの選定につなげるには、意見の多いものが関心の大きいものだと思う。
- ・多くのテーマで多くの意見が出ているが、中身は似たような構造となっている。意見の根底に共通したものとして漠然とした不信感や一部には怒りに近い感情も見える。意見をよく読むと、一見非論理的なものも見受けられるが、根底にはその場でそのように言わざるを得ない何かがあるのだと推察する。知人から聞いたり本で勉強したりしたことだが、南部地域の方々が北部の方々に対して自分たちが被害者であるという気持ちがあるようだ。歴史的にも北部に税金が多額に投入されその結果北部の方が豊かになった、その期間南部地域には投資されなかったなどといった経緯もある。歴史的な経緯は市民討議会の中でも触れざるを得ないと思うが、事実をゆがめずにわかりやすく受け止めやすい形で市民討議会の参加者に提起するのが実行委員会の任務で、ソフトランディングする術を考えたい。市民討議会を南部地域に対する市全体の関心を高めるきっかけにしていけたら良いと思う。

【テーマの設定に向けて】

- ・分類した大中小のタイトルのみを抜き出し、それらの関係図や構造図をつくっていく必要がある。その構造図の単純化したものを市民の皆さんに見ていただき、議論していただくという流れが良いと思う。そういった作業は少人数のプロで行う難しいことである。
- ・各グループで中小タイトルをつけたため、言葉の使い方が統一されていない。言葉を書き換え、一致してくるとつながりやすくなる。中タイトルに埋もれてしまっているニュアンスを意見群の中から再度引出さなければならない。これは心理学の素養や知識が必要で、発言者の「言葉」を拾うのではなく「気持ち」を拾いあげるのが一番大事である。たとえば「反対」ではなく「不満」なのである。南部地域の人々の気持ちを市民討議会の参加者にどう伝えるか、伝え方について実行委員会で考えたい。
- ・市としての計画、国としての計画などがあり、一方で住民の感情がある。これらをどうしたらよいか、市民討議会の参加者に考えていただくことになる。もしくは、市民討議会の2日間で全部の課題を網羅せず、今回明確に不満が出ている課題を中心に話しあうということも考えられる。
- ・今日の残りの時間で作業結果の再確認を行い、相関関係の図化を小針委員にお願いできればと思うが、皆さんどうか。
- ・テーマを絞り込むために、これらの意見の気持ちを表現したものとして図化し単純化することのことがだが、単純化することはテーマの選定に役立つのだろうか。
- ・テーマ選定に直結することではないが、現在の南部地域が抱える問題の相関関係が見えてくる。経験では、図化することで個々の意見の本質が似た構造になっているということがわかってくる。
- ・我々実行委員は回を重ね作業をしたので認識が深まっているが、市民討議会で実際に話しあう参加者はどう討議するのか、イメージがわからない。参加者にうまく伝えるにはどうしたら良いか。
- ・市民討議会には意見抽出型と課題克服型の2種類があるが、後者についてはテーマの順番や話し合いの内容、レベルなどを作りこむ必要があり非常に難しいことである。これまで日本で行われてきた市民討議会は、ある意味無難な前者のみであり、課題克服型は国立市の取り組みが初めてなのではないか。参加者にどう伝えるのかを考えるのが実行委員会の役割である。最初から難しい話題を提示すると参加者の意欲が減退しては困るので、2日間のプログラムの中で参加者に少しずつわかっていただくように段取りを組んでいく必要がある。
- ・今回の市民討議会にどこまでのレベルを求めるかにもよってくると思う。次回以降の市民討議会の開催予定があるのであれば掘り下げること考えられるが、限られた時間の中ではできる範囲内でできる範囲やレベルでのテーマ設定にならざるを得

ない。住民の意見は多岐にわたっており、全てを取り上げるのは難しいと思う。テーマ設定にあたっては、南部地域の人たちの不満や考えをわかってもらうことを含むが、市全域の人が意見を出せるテーマであることも必要となる。住民感情ももちろん大事だが、全市的な見地から話し合うことも大事で、細部にこだわるあまり全市的な見地が見えにくくならないようにする必要がある。

- ・ 国立市全体でどういうまちづくりをするかがまず基本だと思う。その基本を皆で共有することが大事と思う。そのような認識を持ってもらえるようなテーマ設定をしたい。
- ・ 行政としては、市民討議会にどのような内容やレベルの話し合いを求めているか。一番聞きたいことは何か。
→市民討議会では全体の意見の傾向を把握したいと考えており、個々の課題に対しての答えを求めているわけではない。無作為抽出の市民であるから、「南部地域をどうしてきたいか」ということよりもむしろ「南部地域についてどう考えているか」を聞きたいと考える。
- ・ 分類結果からいくつか絞り込めるものがあるのではないかと思う。住民の生活面の改善という点と、国立市の共有の財産としての緑、農地、景観の両立という点の両方の点をテーマに入れていくべきであると思う。両者は対立点であると同時に調整点でもあると思うので、このあたりにうまく意見がでてくるようなテーマ設定をしたい。加えて、整備計画に対する現実の不満に関することもテーマに入ってくると思う。
- ・ 分類した意見の中から不満、不信を抜粋してみることで、何か見えてくるものはないか。
- ・ 現在の大分類とは違った視点で大きく分けると「不満、不信」「賛成、反対」「その他要望」に分類できるが、掘り下げて議論するとき、誘導とならないようにしなければならない。
- ・ 南部地域に対する関心を掘り起こすというふうにならざるを得ないのではないか。
- ・ 2回目以降の市民討議会の実施が未定な中では、意見抽出型になってしまっただけの後のとりまとめができないため市民討議会の結果が宙ぶらりんになってしまうことが懸念される。税金を使ってやることなので、何らかの課題解決にもっていかねばと思う。とは言いつつ、あまりに掘り下げすぎるのもまた問題だとは思っているので、テーマ選定は難しい。
- ・ 参加者は南部地域の生活の問題を短時間で理解できるだろうか。
- ・ 市民討議会の趣旨説明、手順の説明、またテーマごとの情報提供などにより、理解を深めてもらう。
- ・ 他の事例では、1つ目のテーマはざっくりしたものにしてることが多い。例えば日野市の事例では、1コマ目は市のPRビデオを見て「日野市の魅力を感じる」と

る」といったテーマで意見を出しやすくしている。

- ・ 堅く難しいテーマよりも「南部地域の魅力について」のほうが導入部としては話しやすいように思う。
- ・ ソフトランディングの手法としては、1コマ目は「南部地域の魅力」とし基本情報を伝え共有化することを狙いとしてはどうか。2コマ目以降で「ところが現実はこちらである」と深めていくこともできる。2つの視点からの情報提供を行うことで対立する概念の両方に触れることができ、また前のコマを踏まえた話し合いができていくのではないか。
- ・ 南部地域のことを知ってもらいたいと思っているので、どうしたら知ってもらえるかということの提案が得られればと思う。過去の歴史を乗り越えて、南部とそれ以外の地域がつながっていくこと、そのためには行政の支援があればいい、といったような意見が出ればこの市民討議会の意義があるように思う。
- ・ 最初のコマは誰でも自由に話せるテーマとし、最後のテーマを先に決めて、その間を順に認識を高めていくようなテーマでつないでいくようなプログラムの作り方を採用してはどうだろうか。それで良ければ、当面は最後の落としどころをどうするかを考えると良いのではないか。
- ・ この分類結果を見ながら、明日、最後の落としどころの話をしたい。今日の議論の途中で出た相関関係図については、急いで作らなくても良いこととしておきたい。

4. その他

- ①明日までに事務局で分類作業結果と委員の感想キーワードのデータ化を行うこととなった。
- ②事務局から、12月17日（水）に第1回国立市南部地域整備基本計画策定市民検討会を開催することを情報として提供した。

以上